

テレビで放送された「下町ロケット」に登場する
神谷弁護士のモデルとなっている鮫島弁護士との対談記事

株式会社エムダイヤ

代表取締役 森 弘吉 氏

「『もったいない!』をカタチに®」

■リサイクル事業を通して 地球環境に配慮したサービスを提供

鮫島: 貴社の主力商品である粉碎機『エコセパレ®分離・破碎機』(以下、エコセパレ®)の特徴について教えてください。

森: これまで困難だった廃プラスチック+金属複合材や、タイヤのゴムとスチールワイヤ等の異種材混合物を、効率的に、低コストで分離する破碎機です。設備全体の省スペース化にも貢献しています。また、独自の刃物構造により、重量比で95%~99%程度の高い分離率を実現します。

鮫島: 創業者のお父様が『エコセパレ®』の原型を開発されたのはいつごろですか。

森: 今から16, 7年前に父が開発をいたしました。私はその当時工作機械メーカーに勤めていたのですが、この機械をもっともっと世の中に出したいという思いがあり、現在に至ります。

■自動車関連分野から広がる用途開発

森: 機械の開発も大事ですが、我々は一番大事なことは用途開発だと思っています。現在、大きく分けると①自動車関連(廃タイヤ、自動車内装材)、②通信関連(光ケーブル、同軸ケーブル等)、③デジタル家電関連(携帯



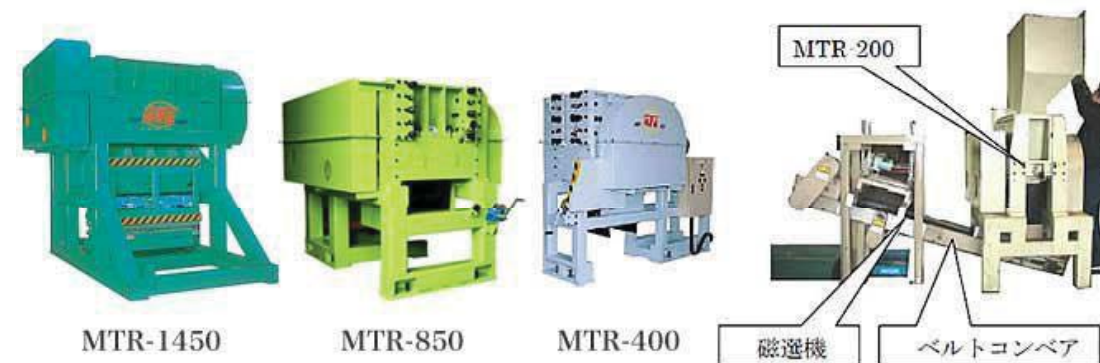
<森弘吉(左)・略歴>。1975年11月1日生まれ。国立富山高等専門学校で機械工学を学び、さらに専攻科に進学。機械・電気システム工学科を経て、1998年に大手工作機械メーカーに就職。2005年エコセパレの原型となった分離・粉碎機を広めるために退職し、新会社を設立。2008年に株式会社エムダイヤに社名変更し、代表取締役社長に就任

電話、パソコン等)の3つ事業分野に分かれています。

鮫島: 新製品の開発も進んでいますね。

森: 昨年、基板の実装部分を剥がしとって金やレアメタルと樹脂部分を分離させる基板剥離機を開発しました。また、『エコセパレ®』のもう一つのラインナップであるエコカッターの電動式使用もあらたに開発しました。

■分離・破碎機エコセパレ®シリーズ



株式会社エムダイヤ 会社概要

設立: 2005年11月21日
資本金: 30,000千円(株主: 森弘吉)
所在地: 富山市滑川市中村551-2

事業内容: 各種機械修理等サービス、リサイクルプラント設計販売
リサイクル商品販売
年商: N.A 役員: (代)森弘吉 従業員数: 8名

従来の油圧式と比べて、省エネ・省スペース・静音を実現しております。

■海外展開と知財戦略

鮫島: 2015年に国際協力機構(JICA)の「案件化調査」に採択されましたが、どういった事業なのでしょう。

森: JICAのODA事業を活用して3,000万円の予算範囲でインドネシアへの製品販売を図るものです。分離破碎された廃棄物をリサイクル資源として有効活用できないか、その調査を進めています。

鮫島: 東南アジアは大きな経済圏ですが、1か国ずつ特許をとっていると膨大な費用がかかりますし、そもそも司法制度が完備されていませんので権利行使がなかなかできない状況です。一方で、敢えてコピーを容認して認知を広げる手段もあるでしょう。技術的難易度が高く、そのノウハウが当社にしかないのであれば、最後に

は顧客は戻ってきます。特許フリー天国の東南アジアでも打てる戦略はあります。

森: GPSを搭載したコマツの建設機械のように、『エコセパレ®』のIoT化も検討しています。装置販売からサービスモデルへの転換が急務です。そのためのITパートナー探しや、場合によっては資金調達も必要です。

鮫島: 時流に乗った事業であり、資金は絶対に集まると思っています。あとは特許ですね。特許ネタはかなりお持ちですので、いかに取捨選択して大事なものをとっていくかがポイントです。海外企業との契約やビジネスモデルに関してもお手伝いができると思います。

森: 下町ロケットのような夢のある仕事をしたいと思っています。

鮫島: 社会的意義の大きい、応援したくなる会社です。本日はありがとうございました。(2016年12月2日)

対談後のコメント

【森】我々のニッチで特殊なリサイクル機械を、国内だけに踏みとどまらず、中国や東南アジアを中心とした、海外市場へと目を向けていきたいと思っています。既にJICAのODAを活用して、インドネシアに進出したり、中国の日系企業にも納品をしたりしております。これからは、我々の技術とIoT技術を持った会社様と連携して、さらなる海外展開していただけるパートナーを探しております。

【鮫島】廃棄物のリサイクルの効率化という高い技術と社会性を持つユニークなビジネスだと感じました。特許によるプロテクションも必要ですが、今後、どのようにノウハウを守っていくかという観点と、どのようにビジネスモデルを構築していくかという二点においていろいろとお手伝いできればと思っています。



インタビュー

弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 代表弁護士 鮫島 正洋 氏

1963年1月8日生。神奈川県立横浜翠嵐高校卒業。1985年3月東京工業大学金属工学科卒業。1985年4月藤倉電線(株)(現・フジクラ)入社~電線材料の開発等に従事。1991年11月弁理士試験合格。1992年3月日本アイ・ビー・エム(株)~知的財産マネジメントに従事。1996年11月司法試験合格。1999年4月弁護士登録(51期)。2004年7月内田・鮫島法律事務所開設~現在に至る。